

# COOP-JOSO News Letter

【ものづくり 人づくり 地域づくり】総代会特集 (2) 来賓あいさつより

## 地域の方たちと力をあわせて 陳情しました！

### 龍ヶ崎市でも 「東海第2原発再稼働 反対の陳情」採択



#### 6月龍ヶ崎市議会に提出しました「東海第二原発を再稼働しないことを求める陳情」 環境委員会では全会一致で採択、20日の本会議では賛成22・反対1で可決されました！

6月龍ヶ崎市議会に提出しました「東海第二原発再稼働しないことを求める陳情」は15日環境委員会では全会一致で採択、20日の本会議では賛成22反対1で可決されました！15日、20日傍聴に駆けつけてくださいました皆様、本当にありがとうございました！！また、土浦、牛久からも応援に来てくださり、とてもうれしく思いました！！

お子さんのお迎えなどで忙しい時間帯にも関わらず、市役所のモニター前にも数人集まっての傍聴会。きっと思いが伝わったのだと思います。

15日は傍聴の15席もほぼ満席、20日は8割ぐらい席が埋まり、議員さん、市職員さん達にアピールできたのでは？と思います。

今回の陳情提出には、脱原発ネットの橋本さんが、地域の方たちとの橋渡しをしてくださり、また、全議員に連絡をしてくださり、丁寧に「東海原発

がなぜ危険なのか、電力は足りている事」などを説明して回ったことが大きかったと思います。

久保台の都留さん、小柴の猪岡さん、私も出来る範囲で同席し、議員さんと話し合いをしました。

橋本さんの粘り強い姿勢には、本当に学ぶことがたくさんありました。そして、地域の方たちと力を合わせて、このようなことが出来た事、とてもうれしく思いますし、ご協力いただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

子ども達を守るため、まずは、東海第2原発廃炉に向けての第一歩が踏み出せたと思います。

今後も、地域の方たちとの繋がりを大事にして、歩みを止めずに行きたいと思っています。引き続き、皆様のご協力よろしくお願い致します。

龍ヶ崎地区理事 加藤理子

さて、1956年に水俣病が公式に確認された年に日本原子力研究所が設立されました。今日で56年目です。先ほど小張さんもお話しされていましたが、私たちの近代化っていったい何だったんだろうか。その水俣病の申請を今年の7月で打ち切ると。

昨日の首相の発言。我々、福島の人達、子供達。将来の命を犠牲にして自分たちの繁栄を語る、そこにあぐらをかいて生活する、それは許されることではない。56年間何をしてきたのか。水俣病を作りだしながら、第二水俣病を発生させ、そして放射能を垂れ流し、何も学んでないわけです。

そして原発再稼働。また同じことをやります。火山大國で地震と津波からは逃れられない宿命に僕らはある

ことを森里海の思想からもしっかり学んで、そうでない社会を作らないといかん。お恥ずかしい。

数十年かけてこの程度の近代化、工業化の水準ってのはたいしたことないんだということ。僕らの命はそんなもんじゃないと。だからぼくらの命を基盤とした組合員活動、生産活動、生活を取り戻していく、作り上げていく、こういうことが大事なんではないかなと思っております。

私も東海第2原発を止める原告のひとりとして、常総生協の一員として、また相沢さんや皆さんと一緒にこれだけは止めたい、なんとしても止めなきゃいけないという思いでやっていきますので、どうぞよろしく願いします。

## 常総生協業者会の会長になってのわたしの目標は、 東海第2原発を終わらせること

常総生協業者会会長 塩屋代表取締役 石原博

昨年の震災から1年、茨城県はもとより東北3県、それから福島県、茨城県も同じですが、放射能が大きな問題となって私たちの前に現れました。

その中で常総生協さんというのは震災当初から、福島原発が事故を起こした当初から放射能の危険性を訴えて、前に出て意見を出して活動して参りました。そのことに対して私達生産者、それから組合員の皆様も頼もしく思えたんじゃないかと思っております。

原発の問題でひとつのことをお伝えしたいと思います。実際に福島原発が1号機、3号機水蒸気爆発をおこして、多くの放射能をまき散らして今の現状、川、海、いろんなところに汚染物質をまき散らしてきましたが、本当に一番怖かったのは4号機であったと。4号機は「使用済み核燃料」で、冷やし続けなければマルチダウンしてしまう。今も不安定な状態が続いているのが事実です。

しかし茨城はもっと怖かった。東海村（再処理施設）は全国の燃料、廃棄燃料をあずかっている。燃料は液体化していますが、これを冷やし続けていました。六ヶ所村再処理工場の数倍の量です。

この使用済み核燃料が今回の震災、津波その他の原因で冷却されなかったとき、もしくはその事故がおきたときには、393京バクレル、京という数字は兆の上です。福島原発事故で放出されたという放射能の100倍です。

3.11の津波が茨城に到達したとき5.6m前後ありました。堤防は6m。防げてはいましたが、工事中で穴が2カ所開いておりそこから海水流入があって5つの補助電源のうち3つが水に浸ってしまいました。2つを稼働して難を逃れた。



もしあと1m津波が高かったら、全部浸水した時点で福島と同じことが茨城で起きていた。茨城でおきていたら、福島100倍の放射能が降り注いでいた。そうなっていたらどうなるんだろうか。考えていただきたい。

それを起こさないために僕たちは立ち上がらなきゃいけないと感じました。先の3月20日のシンポジウムで学者の方が「あと1ヶ所、西で同じような原発の事故が起これば日本に住む場所はなくなる。生産もできなくなる」と。

そういつことを考える時、私たち生産者、組合員の皆さんはお子さん、もしくは次代の人達に残すべきものを残さなきゃならない。それを考え話し合い、実行に移していく時じゃないかなと私は思います。

日本の原発は、私の生まれた年にここ茨城の東海から始まりました。ならば、最初にここから終わりにさせましょう。私は今年常総生協業者会の会長に就任しましたが、私の目標は、ここで東海第2を止めること。原発を終わらせたいと思います。

## 東海第二原子力発電所施設の安全性の客観的証明及びそれに基づく県民の同意なしには再稼働しないことを求める意見書採択についての陳情書

常総生活協同組合 龍ヶ崎地区理事 加藤理子  
放射能汚染について考える龍ヶ崎市民の会  
代表 高橋美和子 事務局 橋本建八郎 本山久乃  
放射能汚染から子どもを守ろう@龍ヶ崎 都留孝子

龍ヶ崎市議会議長  
川北嗣夫殿

### 【陳情趣旨】

福島第一原発事故は、これまで「安全」とされて来た原子力発電、それが単なる「神話」でしかなかった事を実証すると共に、放射能汚染被害は県境を越え、東北・関東一円に拡がりホットスポットと呼ばれる、高濃度汚染地域を随所に創り出しています。

当市も特措法による「汚染状況重点調査地域」に指定されることとなり、また「命の水」霞ヶ浦には、セシウム汚染が流域中小河川を通して忍び寄ろうとするなど、子どもを持つ母親や妊産婦に計り知れない苦悩・不安を与えています。

一方、茨城県東海村には運転開始から既に33年を経過した日本原電・東海第二原発（出力110万Kw）があり、今回の地震で震度5強（原子炉建屋）の揺れを観測するなか、外部電源の喪失を始め圧力抑制室に蒸気を逃がす弁の損傷、制御棒のハンドルのひびや、シュラウドサポート（炉心支持構造物）のひび割れ増加など、いたる所に老朽化現象が見られました。

同じく1978年に運転を開始した2機、浜岡第2号炉は2009年1月廃炉が決定し、他方の福島第一5号炉も県の強い廃炉要請等事実上の廃炉の方向にある中、東海第二は再稼働を目指すとされています。

半径20Km圏内に75万人、30Km圏で見ると100万人が住むという、人口超過密地帯に建つ東海第二原発、加えて政府の地震調査研究本部や東大地震研究所等が、極めて高い確率でM7～8の巨大地震が茨城県沖で起り得ると予測しています。M7級の被害とは、震源地の深さが浅い場合では震度7、深い場合では5強から6弱とされており、今回の地震を上回る影響が出る可能性が指摘されています。

住民の安全・健康そして暮らしを守るという、地方自治の本旨に立ち戻って考える時、東海第二原発の再稼働は慎重な上にも慎重であるべきと思料いたします。

目下国会の事故調査委員会が、福島原発事故の原因究明にあたっている最中であり、その検証結果を踏まえた新たな安全基準のもと、安全性が証明され、住民の同意が得られることが、再稼働に当たっての必須条件と考えるものです。

「ストレステストの一次評価では安全確認にならない」ということは、原子力安全委員会のみならず国民共通の認識といっても決して過言ではありません。その一次評価すら未だに提出出来ていない日本原電・東海第二原発の施設の「安全性」に強い懸念を示しつつ、以下の通り陳情致します。

【陳情項目】

- 1、福島原発事故の完全な原因究明と、それに基づく新たな安全基準により施設の安全性が証明されない限り、東海第二原発の再稼働は行わないこと。
- 2、立地自治体のみならず、周辺自治体ならびに茨城県民全体の同意確認なくしては、東海第二原発の再稼働は認められないこと。
- 3、30Km圏内自治体の「県原子力災害対策計画策定」の中で、住民避難対策の具体的計画を確立しておくこと。また、福島事故の事例に鑑み、県内全市町村を対象に同様計画を確立しておくこと。

以上、地方自治法第99条の規定により、国及び県へ意見書を提出する。

（提出先 内閣総理大臣、経済産業大臣、環境大臣、衆参両院議長、茨城県知事）

【6/9 第39回常総生協総代会】

## 総代会での来賓のみなさんのご挨拶（2）

### 常総生協がこころの支えに 地域の宝ね!

脱原発ネットワーク茨城 代表世話人 小張佐恵子

私も組合員のひとりで脱原発委員会にも所属しているのですが、来賓の席に座っているのが居心地が悪いのですが・・・。

私たちがネットワークでいろいろな取り組み、講演会やパレードなどをやってきましたけれども、ときに本当に疲れ、むなしくなるときも常総生協さんが支えてくださってきたからこそ今日までやってこれたのではないかなと本当に感謝しております。

そして被災地の業者の皆様やいろいろな方のお話を伺って、本当に熱い思いと誠意とで支えられている常総生協というものは茨城の宝だなと本当に強く感じております。

一緒に頑張って原発を止めて、そして原発を止めるだけじゃなくて、経済優先の日本のあり方は戦前からずっと変わらなく続いてきたもので、今日に始まったも

のじゃないと思うんですね。だから大飯原発再稼働みたいなことが行われるのであって。



たとえば広島、長崎の被災者とか、水俣の被害者とかそうゆう方たちの苦難を値切ってというか、見捨ててこの高度経済成長に突き進んできた日本のあり方そのものを変えていかないかぎり本当の意味で日本が幸せな世界というものを築くことはできない。誰かの犠牲の上に成り立つ幸せっていうものはありえないということをもう一度確認しながら一緒になって進んでいきたいと思えます。

訴訟も頑張りたいし脱原発も頑張りたい。そのためには常総生協さんと本当にやっていきたいと強く思います。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

## いのちを基盤とした僕らの組合員活動、生産活動、生活を取り戻してゆく、つくりあげてゆく

日本有機農業研究会副理事長 魚住道郎

過去の赤字をすべて解消ということで理事長や副理事長がニコニコしています。自分たちの信念を貫いて生協を今日まで継続されて、本当にエネルギーな組合員活動をされてきたんだなと思って、大変素晴らしい生協だなと今でも尊敬しております。私もその一組合員として、ここに参加できることを大変誇りに思っております。

そういう中で3.11以降、放射能の測定ということで昨年の7月、そして今年の2月に測定器を積極的に導入されて、組合員そして組合員外の人にもその機械を開放して、この関東ないしは東北一帯の放射能測定に常総生協が市民の目で、市民の力でみんなで測定し

てきて今日に辿りついたということ。素晴らしい活動だなと僕は思います。



そこに私たちがやっております日本有機農業研究会も「森里海」という新しい思想で合流し、農民も漁民も森の人も市民も労働者もみんなつながっていいよ、と「森里海放射能測定室」を積極的に私達にも開放して頂きまして、共同の測定室を作り上げられたということも、この国際協同組合年にとってもふさわしい活動のひとつの軌跡になったかなと思っております。